

# 職員オススメ本 7月



「団地のふたり」 藤野 千夜／著 U-NEXT

イラストレーターの奈津子と、大学講師のノエチは、保育園から中学までずっと一緒だった幼馴染。就職や結婚を経て50代になり、それぞれ生家の団地に戻ってきている。長い付き合いでお互いの事がよくわかってる2人は、小さなケンカはしながらも、のほほんと日々を過ごしていく。

幼馴染2人のゆるやかな日常を描いた物語です。



「世にも美しい三字熟語」 西角 けい子／著 ダイヤモンド社

熟語といえば四字熟語のイメージが強いのですが、「熟語」には二字熟語、三字熟語、四字熟語と色々あります。その中でも三字熟語は影の薄い存在ではないでしょうか？言葉は知っていても、意味やどんな字だったか意外と覚えてないことがあるかもしれません。

本書の穴埋め形式のクイズに挑みながら、様々な状況に応じた三字熟語を楽しみつつ、語彙力を高めていきましょう！



「本が紡いだ五つの奇跡」 森沢 明夫／著 講談社

津山奈緒は、出版社に四年務める編集者。奈緒が担当したいと申し出た「涼元マサミ」は、デビュー作「空色の闇」が映画化もされた唯一のヒット作で、その後出版した作品は全く売れていない作家だった。

しかも、五年前に別の担当者と揉めたこともあり、上司からも反対される。しかし、反対を押し切ってでも奈緒が涼元にこだわる理由は、次から次に悪いことが重なった暗黒時代を救ってくれた作家だったからだ。

もう一度、「空色の闇」のような作品を書いてほしいと奔走するが、涼元とは険悪な雰囲気のまま執筆を断れてしまう…。

一冊の本と関わった編集者、小説家、ブックデザイナー、書店員、読者が奇跡を紡いでいく物語です。